

建築構造基準委員会への報告事項

長周期地震動対策検討 WG

1. WG 活動のこれまでの経緯

第 1 回（7 月 20 日）

- ・ WG の目的と課題の確認
- ・ 東北地方太平洋沖地震による建築物被害の報告
- ・ 長周期地震動に係わる中央防災会議等の検討状況についての情報共有
- ・ 基整促課題 4 2 における研究計画の報告

第 2 回（9 月 9 日）

- ・ 基整促課題 4 2 における検討状況の報告
- ・ 各委員による意見表明

第 3 回（10 月 6 日）

- ・ 各委員による意見表明を受けた対応方針の検討

2. 当面の検討を進める上で必要となる共通認識

- (1) 早急な長周期地震動対策が必要であると基本認識する。
- (2) 対策では、基本的には、時刻歴告示(H12 建告第 1461 号)のサイト波に準じた扱いをする。
- (3) 対象とする地震としては、南海地震や連動地震なども考慮する。原則として、中央防災会議や地震調査研究推進本部が想定する震源モデルを基本とする。
- (4) 対策試案の手法（観測データを基にした予測法）については、今回の地震等に対する検証をより一層進める。
- (5) 地震動のレベル設定、提示方法については、継続した検討が必要である。
- (6) 解説では、設定条件等を明示し、誤解の無いようにする。（例：什器）
- (7) クライテリアについては、別途、検討する。

建築構造基準委員会 WG等の設置について

建築構造基準委員会
(委員長:久保哲夫 東京大学教授)
【 東日本大震災現地調査 4/21・22 第1回 6/8 ~ 】

技術基準
原案の提示

長周期地震動対策検討WG
(主査: 国総研)
【 第1回 7/20 ~ 】

「長周期地震動に関する対策試案」パブリックコメントにおける意見

委員会・WG事務局の支援主体

技術基準等原案作成TG
(主査: 国総研)
【 第1回 7/21 ~ 】

建築基準整備促進事業等による知見の収集・蓄積作業

42.超高層建築物等への長周期地震動の影響に関する検討等

21.基準整備に関するニーズ
シーズ把握に関する検討

「コンタクトポイント」:
民間から技術基準に関する提案